松江市 報道提供資料

令和７年２月６日

件名： 松江市登録歴史的建造物の登録について

内容：「松江市登録歴史的建造物」として3件の建造物を登録しました。

概要：　松江市では地域固有の歴史的資源である歴史的建造物を保全継承し、活用を図ることにより、歴史的資源を活かしたまちづくりを推進するため、平成28年7月に歴史的建造物の登録制度を創設しました。

　新たに3件の登録候補建造物について登録の適否を審議するため、令和6年11月22日（金）に「令和6年度松江市歴史的建造物保全活用審議会（会長　清水真一）」を開催し、答申の結果を受け、下記の3件の建造物を松江市登録歴史的建造物として登録しました。

【松江市登録歴史的建造物】　登録年月日：令和7年1月23日

①登録番号第　19　号
美保館別邸　月那離宮（旧定秀家）

②登録番号第　20　号
美保館別邸　大正館　柘榴（旧木谷家）

③登録番号第　21　号
パンェブール（旧桑原商店）

【問い合わせ】
　文化スポーツ部　文化財課　担当：作野　達彦、不動寺　海斗　　電話：0852-55-5956

①令和６年度松江市登録歴史的建造物　『美保館別邸　月那離宮（旧定秀家）』

名　　称　・・・　美保館別邸　月那離宮（旧定秀家）

１．登録番号　　第19号

２．所　在　地　　松江市美保関町美保関388番地

３．建　築　年　　昭和初期頃

４．設　計　者　　不明

５．構造・規模　　木造２階建て

６．延床面積　　136.62㎡

７．建造物の概要

美保館別邸　月那離宮（旧定秀家）は、当初、泊小路の美保館新館付近に旅館として建てられ、昭和初期に現在の場所に移築してきたものと伝えられている。移築後はしばらく定秀家の住宅として使用されていたが、令和元年に内装が改修され現在は建築当初と同じ旅館として使用されている。

正面入り口にあるむくり屋根の庇や波紋の彫刻を施した持ち送りなど、特徴的な意匠を残し、内部においても、部屋境に設けられた欄間や、１階の３畳の部屋に設けられた付書院風の嵌め殺し窓等、旅館建築らしい和風の意匠が随所に配されている。

美保関の歴史的な景観を形成する重要な建物であると同時に、昭和初期頃の旅館建築の様相を後世に伝える貴重な建物である。

位置図

外観写真

むくり屋根の庇

波紋の彫刻を施した持ち送り

②令和６年度松江市登録歴史的建造物　『美保館別邸　大正館　柘榴（旧木谷家）』

名　　称　・・・　美保館別邸　大正館　柘榴（旧木谷家）

1．登録番号　　第20号

2．所　在　地　　松江市美保関町美保関355番地

3．建　築　年　　大正元年（1912年）

4．設　計　者　　大工　岡島小平　・　石工　山本久太郎

5．構造・規模　　木造２階建て

6．延床面積　　153.71㎡

7．建造物の概要

美保館別邸　大正館　柘榴は、大正元年（1912年）に建てられた木造２階建ての町家建築である。当初の所有者であった木谷家はかつて網元であったとされている。平成29年に美保館の所有となった後に改修が行われ、現在は１棟貸しの宿として利用されている。庭に樹齢70年の柘榴の木が植えられていらことから、その名が付けられた。

美保関の多く見られる切妻平入の町家の中でも、稀有な間口が広い建物で、本通りに面して敷地間口いっぱいに主屋が建っている。海側には、石の擁壁と階段が残っており、往時の海岸線を示している。小屋組は松の曲木を梁として使うことで２階の天井が高くなっており、狭い空間を有効利用する美保関特有の木材の使い方や大工技術をよく残している。

美保関の歴史的景観に寄与する建造物であるとともに、美保関の人々の生活と海の関係を語る重要な建造物である。

位置図

外観写真

石の階段

小屋組

①令和６年度松江市登録歴史的建造物　『パンェブール（旧桑原商店）』

名　　称　・・・　パンェブール（旧桑原商店）

1．登録番号　　第21号

2．所　在　地　　松江市石橋町421番地

3．建　築　年　　大正期頃

4．設　計　者　　不明

5．構造・規模　　木造２階建て

6．延床面積　　363.65 ㎡

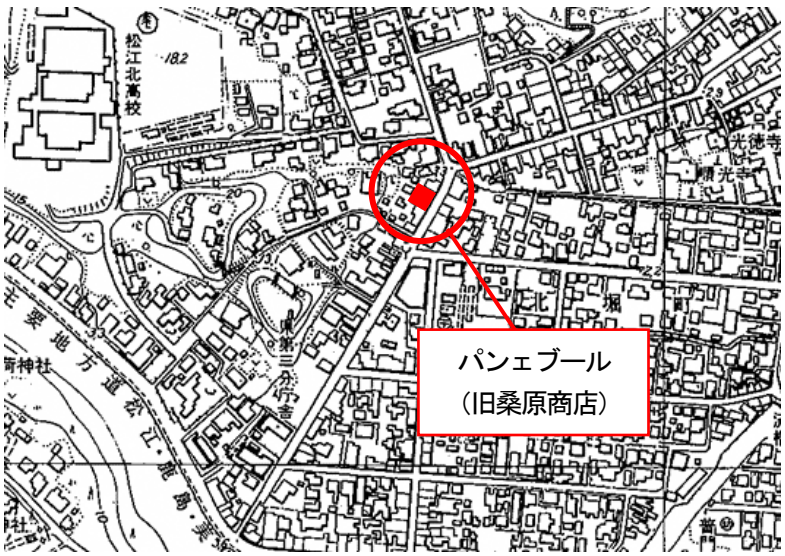
7．建造物の概要

パンェブール（旧桑原商店）は松江城の北側、江戸時代より醸造業などの職人町として栄えた石橋町に位置している。切妻平入で木造２階の建物であり、大正期頃の建築と考えられている。店舗の前進である「桑原商店」は酒・菓子・たばこ・日用品を扱う店として明治20年（1887）に創業され、現在はパンの販売店として営業されている。

道路に面する東側２階はうだつを設けた特徴的な造りで、軒や窓廻り、付け柱には漆喰で装飾を施され、洋風の面影が残っている。一方、西側は２階に木製のガラス戸、屋根や庇は瓦葺きで純和風な造りとなっている。洋風と純和風を兼ね備えた建物である。また、側面の外壁は防火壁を使用し、頂部には「山」を表す「への字」と「出」の装飾が施されている。

松江の明治後期頃の近代建築によくみられる「登り梁形式」残し、地域の歴史的景観に寄与するとともに、城下町松江に残る近代建築として貴重な建物である。

位置図



外観写真

背面（純和風の造り）

「への字」と「出」の装飾